家園

第 36 号

字体作者：周　慧珺

特定非営利活動法人

中国帰国者・日中友好の会

〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7

ペガサスミシンビル１階



舞踊『愛の貢献』in チャイナフェスティバル 2026

目次

★　NPO 活動写真 2

★　「満蒙開拓の歴史と残留日本人問題を知る」リレー講座が開講..... 大久保明男　3

★　満蒙開拓義勇軍記念館紀行..... 石金楷　4

★　【追悼】福田康夫元総理 ..... 池田澄江　5

★　「チャイナフェスティバル2026」のステージで得たもの ..... 清水美帆　6

★　「帰国者墓地」紹介（宇都宮孝良）・伝えられない「ありがとう」（村松緑）..... 7

★　本会活動記録・お知らせ・編集後記..... 8

活　動　写　真



楽器演奏 in チャイナフェスティバル 2026



合唱 in チャイナフェスティバル 2026



第 2 回リレー講座の参加者



中国成立 77 周年祝賀会に理事長が出席



上野賢一郎厚労大臣との面談(7月 19 日)



映画「日本人の忘れ物」鑑賞会(制作・河合弘之)



鯉渕学園農業栄養専門学校訪問



水戸市内原郷土史義勇軍資料館見学

「満蒙開拓の歴史と残留日本人問題を知る」リレー講座が開講

大久保明男

本会は今年七月から、新たな活動の試みとして標題の講座を開設しました。講座の趣旨は主に以下の三点にあります。

1）戦後八十一年も経ちましたが、中国「残留」日本人の歴史や現状に対する日本社会の理解は必ずしも深まったとは言えません。中国「残留」日本人の問題をより広く社会に認知してもらい、後世に語り継ぎ、問題の風化に抗うとともに、二世三世の生活状況改善や日中関係の改善に寄与することを目指します。

2）中国「残留」日本人問題は、その根源を戦前の満蒙開拓に遡ることができます。以来、一世紀にわたり、日中両国が関わる複雑で多種多様な要素が積み重なって、今日に至っています。したがって、この問題を満蒙開拓から戦後の引揚げまでの歴史の中において捉え直し、一国史観や加害被害の二元論を超えて、より広い視野と柔軟な考え方で理解を深めることが必要と思われます。

3）一世たちの高齢化が進む中で、本会の活動を継続させるために、活動内容の多元化、活性化が必要となっています。世代交替に備えながら本会の持続的な発展をはかるために、本講座は寄与するものと考えます。

講座は年4回開講。1月、4月、7月、10月の第三土曜日、15時から17時まで、本会地下会議室でおこなう予定です。前半は講義、後半は討論の形を取り、使用言語は原則日本語とします。講師は固定制ではなく、毎回、本講座の趣旨にふさわしい社会各界で活躍されている方をお招きして、リレー方式でおこないます。すでに開催された第一回目は、一條三子先生（跡見学園女子大学、放送大学、埼玉県立高校元教員）、第二回目は、河合弘之先生（弁護士、中国残留孤児の国籍取得を支援する会会長、フィリピン日系人リーガルサポートセンター代表理事）が担当してくださいました。

受講対象者は、本会会員、帰国者（二世三世含む）、支援者、研究者、一般市民と想定しております。受講料は無料。定員は毎回四〇名まで。事前申込制で、先着順となります。



初回の講座の様子

ご関心ある方、特に本会の会員および関係者のみなさまのご参加をお待ちしております。

本会自今年7月起，作为一项新的活动尝试，开设了上述讲座。该讲座的宗旨主要包含以下三点：

1）尽管战后已过去81年，但日本社会对中国“残留”日本人（遗留在中国境内的日本人）的历史及现状，未必有足够深入的了解。我们希望日本社会更广泛地认知中国“残留”日本人问题，并将其传述给后代，以阻止这一问题被风化和遗忘；同时，也旨在改善第二代、第三代的生活状况，并为改善日中关系做出贡献。

2）中国“残留”日本人问题的根源，可追溯到战前的“满蒙开拓”。此后一个世纪以来，日中两国之间错综复杂、多种多样的因素相互交织，演变至今。因此，有必要将这一问题置于从“满蒙开拓”到战后撤离（归国）的历史进程中重新审视；力争超越单一国家的历史观以及“加害与受害”的二元对立论，以更广阔的视野和更灵活的思维方式，加深对该问题的理解。

3）随着“遗孤”第一代当事人的日益高龄化，为使本会的活动得以延续，需要探讨活动内容的多元化与活力化。我们相信，本讲座将有助于应对世代更替，并促进本会的可持续发展。

讲座每年将举办4次，计划于1月、4月、7月和10月的第三个星期六，15:00至17:00在本会地下会议室举行。讲座前半部分为讲义，后半部分为讨论；原则上使用日语进行。

讲师并非固定人选，而是采取“接力”方式，每期邀请契合本讲座宗旨的，在社会各界活跃的人士担任。已举办的第一期讲座由一条三子老师（曾任教于迹见学园女子大学、放送大学及埼玉县立高中）主讲，第二期则由河合弘之老师（律师；“支援中国遗孤取得国籍之会”会长；“菲律宾日裔法律支援中心”代表理事）担任主讲。本系列讲座面向本会会员、归国者（含第二、三代）、支援者、专家以及一般市民。讲座免费，因会场关系每期限定40人。需提前报名，按报名先后顺序参加。

欢迎各位感兴趣的人士，特别是本会会员及相关人士踊跃参加

【追悼】福田康夫元総理

福田康夫元総理の訃報に接し、先生のあまりにも突然の旅立ちに、言葉を失いました。

私たち中国帰国者は、先生のご恩を決して忘れません。

2007 年１２月、先生は内閣総理大臣として首相官邸で残留孤児の代表にお会いになり「気づくのが遅くて申し訳なかった」というお言葉を口にされました。日本の総理が、中国から帰国した戦争孤児に対して頭を下げて謝罪したのは、あれが初めてであり、最後かもしれません。「同じ日本国民として、幸せに暮らす権利がある」―そのお言葉を聞いたとき、日本で何十年も目立たないように、差別に耐えながら黙々と暮らしていた多くの残留日本人が、初めて自分たちの存在が国に認めてもらえたと受け止めたのです。

その後、残留邦人新支援法が施行され、おかげ様で、私たちは幸せに暮らすことができるようになりました。

先生は総理退任後も、日中関係のために奔走され、南京大虐殺遇難同胞記念館を訪れて「歴史は消し去ることはできない」と語られました。二つの故郷を持つ私たちにとって、そのお言葉の重みは計り知れません。日中関係が「国交正常化以降、最悪」といわれるこの時期に、日中関係の重要性をおわかりになる数少ない政治家がまた一人亡くなったことに言葉で表せない深い悲しみを感じております　。

先生が総理大臣として、私たちに日中友好の道を敷いてくださった、その道に私たちはこれからも歩み続けてまいります

どうか安らかにお眠りください。

残留孤児　池田澄江

ここに、福田元総理のお言葉を、その「憂国の声」を皆さまにお届けしたい、と思います。



その１、2018 年 6 月 24 日、「侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館」を訪問した時

「戦争をしてはいけない。平和が一番大事だ。戦争が一般市民を巻き込み、多くの被害をもたらした。人類として再び起こしてはならないことであり、事実もまた事実としてしっかりと受け止めなければならない」

その２、2007 年 12 月 28 日　北京大学にての講演

長い歴史の中で、この様に不幸な時期があっても、これをしっかりと直視して、子孫に伝えていくことがわれわれの責務であると考えています。戦後、自由と民主の国として再生したわが国は、一貫して平和国家としての道を歩み、国際社会に協力してきたことを誇りに思っています。しかし、そうした誇りは、自らの過ちに対する反省と、被害者の気持ちを慮る謙虚さを伴ったものでなくてはならないと思います。過去をきちんと見据え、反省すべき点は反省する勇気と英知があって、はじめて将来に誤り無きを期すことが可能になると考えます。

同時に、日中の長い歴史を俯瞰するとき、より長い、長い、実り多い豊かな交流があったことを忘れてはならないと思います。

その３、2026 年 8 月 14 日、BS 報道 1930 の取材で

「今の外交は『どこかとは喧嘩してもいいんだ』というふうなことを安易に考えている可能性がある。どうしたら日本が将来、平和で安全な国、豊かな国になれるかということを中心にもっと考えたらいいと思いますよね」

细雨洗净沧桑 历史见证和平——中国归国者茨城内原开拓史迹参访纪行

文：石金楷

9 月 29 日，淅淅沥沥的秋雨，清晨便洒落东京街巷，薄雾漫卷，雨丝绵长，为这次历史溯源之行，渲染出沉静肃穆的氛围。「中国归国者・日中友好之会」组织 69 人参观交流团，奔赴茨城县水户市内原片区，踏访三处镌刻近代特殊记忆的文教旧址。

坐落于水户市内原的日本农业实践学园，是 1926 年加藤完治创办的日本国民高等学校，加藤完治担任首任校长。建校之初，学校以振兴乡村教育为办学方向，而在战争年代，加藤完治积极参与日本战时移民国策，是大陆开拓移民运动的重要推动者，依托学校体系，在内原设立满蒙开拓青少年义勇军训练所。1938 年，由日本政府发起，主要招募国内十五至十九岁的农村少年，经过农业、军事集训之后送往中国东北，执行殖民开拓任务。1938 至 1945 年间，约 9.6 万名日本青少年在此接受训练，其中 86530 人被输送到中国东北，成为开拓团主力，这片育人之地就此烙下近代殖民移民的深刻印记。

烟雨朦胧之间，籾山旭太学园长致欢迎辞。他介绍加藤完治早期域外开拓尝试，以及后续拓展至中国东北满洲地区移民开拓的全过程。他坦然指出，日本战败之后，大批开拓民众被仓促遗弃在中国土地上，流离失所，求生维艰，酿成难以抚平的人间悲剧。

雨中校园清朗静雅，交流团逐一参观校内设施，走访武道场馆，聆听校史讲解。

辞别农业实践学园，秋雨仍在缓缓飘落。交流团移步一墙之隔的水户市立内原乡土史义勇军资料馆，受到馆内工作人员热情接待。该馆 2003 年正式开馆，依托旧满蒙开拓青少年义勇军内原训练所遗址修建，1938 至 1945 年，此地归满洲移住协会管辖，作为青少年义勇军核心训练基地，专门招募十五至十九岁青年，完成农业、军事集训之后，大批送往中国东北执行开拓移民任务。战争结束，训练所废止沉寂，水户市就地筹建资料馆，兼顾地方乡土文脉整理、近代移民史档案保存，是日本国内为数不多专门保存开拓义勇军史料的公立场馆。

步入展馆，氛围庄严肃穆。人们放慢脚步，神情沉静，仔细研读文字记录，端详一件件历史遗存。乡土史展区陈列本地出土文物、古旧地图与民俗器物，娓娓述说地域人文沿革；义勇军主题展区承载着厚重的苦难记忆。褪色制服、泛黄日记、饱含牵挂的家书、朴素的生活旧物，串联起少年应征、艰苦受训、远赴东北、战败受难的完整轨迹。

走出资料馆，来到近旁的鲤渊学园农业营养专门学校，探访另一处战时史迹。

学园学园长平原信男向众人解说校地渊源。他介绍，这里当年专门培养开拓团基层干部，经由此地受训的管理人员、农事指导员奔赴中国东北，战败之后众多开拓民众陷入被遗弃的绝境，承受巨大苦难，这里也因此成为开拓后裔追溯根源、反思历史的重要地点。他特别提到，战后学园不少教职人员均为归国者，亲身经历逃难奔袭、同胞离世、战乱追逼，对战争灾祸有着切身体会。

基于战后反思，学园奉行清晰的育人理念：放下刀戈，执起锄头，以踏实劳作开垦和平大地，以精良农技换来丰收安宁。将和平理念融入日常教学，引导后辈认清历史过错，遏制战争思维复苏，是该校恒久不变的教育重心。这番平实恳切的讲述，引发大家的共鸣。直面过往过失，诚恳复盘历史，用教育传递善意，才是对受难者最好的告慰，也是社会向前迈进的坚实力量。

参访临近尾声，全体人员合影留念，中国归国者・日中友好之会理事长池田澄江分享此行感触。她表示，实地走访之后，全体团员得以更加系统完整地看清满蒙开拓史的来龙去脉，深切体会战争带给两国民众的深重创伤，更加懂得和平局面来之不易。她期许众人记取历史教训，跳出旧日隔阂，着眼长远未来，持续助力中日民间往来，推动两国国民相知相亲。

一整天的史迹参访，在绵绵秋雨之中落下帷幕。细雨依旧静静洒落，滋养这片饱经沧桑的土地。风雨洗刷往事，岁月沉淀真知。历史伤痕不容淡化，战争悲剧不容重演。

以史为鉴，可以明得失；以伤为警，可以启将来。愿中日两国秉持善意，互谅互容，依靠民间交流搭建互通的桥梁，以真诚包容守护长久安宁。祈愿中日山河静好、民心相通，两国睦邻相守，世代友好，永久太平。

「チャイナフェスティバル２０２６」のステージで得たもの

清水美帆

站在绿树成荫的代代木公园野外舞台上，看着台下日本观众为中国民族舞鼓掌的那一刻，我脑海里浮现的，却是教室里那些花白头发的学员们，一遍遍练习扇子舞时微微颤抖的手。

我们会的各个教室，和其它地方不太一样。这里的学员中，有不少是残留孤儿以及他们的家属。也有在中国长大，日语不流利的人，舞蹈教室对他们来说，不只是学舞蹈的地方，更是一个能让心安定下来的场所。正如协会设立的初衷：传递残留邦人的历史与经验，加深与一般社会的交流，促进日中两国民众的相互理解与友好。

从教室到舞台，每一步都不容易。排练时，有舞蹈学员因为腿脚不如年轻时灵活，一个简单的转身要练上十几遍。还有乐器班和音乐班的学员担心拖大家后腿，一大清早就来练习。各个班的老师更是身先士卒，一遍遍修改乐谱或动作，让大家的表演更具吸引力。

理事长池田澄江跟大家说：这个舞台不是要你们跳得完美，是要让台下的人看见你们还在跳。在中国节这样的场合亮相，本身就是一种声音——残留孤儿和他们的家人，仍然在这里。她们一生经历了两个国家、两种语言、两种身份。而今天，我们 71 名成员用一支舞、一首歌、一出曲连接了两个山海相隔的国家。

演出结束后，有日本观众走过来对我们说“素晴らしかった”。一位参演者听了，眼眶有点红。她跟我说，在日本生活了几十年，有时候还是觉得自己是个“外来人”。但今天站在这个舞台上，被掌声包围的那一刻，她觉得自己被看见了。

这也正是我们协会坚持开设舞蹈、合唱、乐器教室的原因。文化不是抽象的概念，它就是一个人站在舞台上时，台下有人愿意停下脚步看完的那几分钟。

感谢中国节实行委员会提供这样的舞台。也感谢每一位留在台下看到最后的观众。明年，我们希望带更好的作品来。不只是给华人看，更是给那些对中国好奇、却还没走近的日本朋友看。舞蹈和音乐不会说话，但它能让两个国家的人，在同一个节拍里，站得近一点。

緑いっぱいの代々木公園の野外ステージに立ち、日本人観客が中国の民族舞踊に拍手を送ってくれた瞬間、私の脳裏に浮かんだのは、教室で白髪交じりの受講生たちが扇子舞を何度も何度も練習する、あの少し震える手だった。

私たちのＮＰＯが運営する各教室は、他の場所とは少し違う。ここに通う受講生の中には、中国残留孤児とその家族が少なくない。中国で育ち、日本語が流暢ではない人もいる。舞踊教室は彼らにとって、ただ踊りを習う場所ではなく、心が落ち着く場所でもある。ＮＰＯ設立の趣旨である、「残留邦人の歴史と経験を伝え、一般社会との交流を深め、日中両国民の相互理解と友好を促進する」の通りだ。

教室からステージへ、容易なことではない。リハーサルの時、ある受講生は足腰が若い頃のように動かず、単純なターン一つを十数回も練習した。楽器班と音楽班の受講生は足を引っ張るのではと心配し、朝早くから練習に来た。各班の先生方は自ら先頭に立ち、楽譜や振り付けを何度も修正し、皆の表演をより魅力的なものにした。

理事長の池田澄江さんは皆にこう語りかけた。「このステージは完璧に踊るためではなく、会場の人たちに、あなたたちがまだ踊っていることを見てもらうためのものだ」と。チャイナフェスティバルのような場に登場すること自体が大きな発表です。残留孤児とその家族は、今もここにいる。彼たちはいままでの間に二つの国、二つの言語、二つのアイデンティティを経験してきた。そして今日、私達７１名のメンバーが一回の踊り、一曲の歌、一度の演奏で二つの国をつないだ。

公演終了後、ある日本の方が近づいてきて「素晴らしかった」と言ってくれた。ある受講生はそれを聞いて、目が少し赤くなった。彼女は私にこう話した。日本で何十年も暮らしてきたけれど、時々自分は「外から来た人間」だと感じてしまう。でも今日、このステージに立って拍手に包まれた瞬間、自分は見てもらえた、と感じたのだ。

これこそが、私たちのＮＰＯがダンス、合唱、楽器の教室を続けている理由だ。文化とは抽象的な概念ではない。それは、一人の人間がステージに立った時、どなたかが足を止めて最後まで見てくれる、あの数分間のことなのだ。

中国節実行委員会に、このようなステージを提供してくださったことに感謝する。そして、最後まで見てくださったすべての観客の皆さんに感謝する。

来年は、もっと良い演目をお届けしたい。華人華僑に見てもらうためだけではなく、中国に興味を持ちながら、まだ近づけていない日本の方にも見てもらうために。踊りと音楽は言葉を話さない。しかし、それは二つの国の人々を、同じリズムの中で、少しだけ近づけてくれるのだ。

归国者墓地介绍

宇都宮孝良

中国归国者之墓地处东京都あきる野市西多摩陵园。四面环山树木成林环境非常优美，交通方便有无料的接送巴士，是中国归国者能安心安葬的一个风水宝地。

1990 年河合弘之律师为解除广大归国者为墓地而担忧的问题，出资营建了中国归国者之墓。海部俊树元首相为墓碑题词（中国归国者之墓）。

墓地骨灰安置既是中国归国者、配偶者以及二、三四代均可安置此墓地。墓地内的设施是可安置 500 多个骨灰盒。目前已安放 363 个骨灰盒。

另外还有 30 多位在世的归国者考虑到将来墓地满员了怕没有自己安放的位置，因此做了提前预约的准备；还有先放进墓地里的一些人后来有条件了自己买墓地从墓地里也可以取出来也是可以的；再有几位归国者是在中国去世的，他们把骨灰带回日本安放到墓地里。有几位归国者是在日本去世的在放置墓地后又取出来带回中国安葬的。

我们愿针对归国者的不同情况提供良好的服务而努力。

墓地所在地为：东京都秋留野市管生 716　西多摩陵园

交通：JR 中央线立川站 转青梅线福生站 西口免费的巴士接送

联系电话：03-3835-9357 传真：03-3835-9358

「帰国者の墓管理委員会」（NPO 法人中国帰国者・日中友好の会内）

担　　当：河村・宇都宮（中国語）　祖父江（日本語）

10 月 30 日、本会会員の村松緑が舞踊教室の活動の後、帰宅する途中で、NPO のすぐ近くの路上で転倒してしまった。通りかかったチュニジアの方二人と同行の日本人女性通訳が救助してくださったが、あまりにも突然のことで動揺した村松さんは名前も聞かずにいた。

病院で手当てを受けた村松さんがチュニジア大使館にメールをおくった、翌日返信を貰った。

もしかして、恩人たちの名前は一生わからないかもしれない、その国境を超えた人間の愛は永遠に忘れない。以下はそのメールの内容。

駐日チュニジア共和国大使館

ご担当者様

突然のご連絡、失礼いたします。

このたび、チュニジアの方々から大変温かいご親切を受けましたので、ぜひ感謝の気持ちをお伝えしたく、メールを差し上げました。

10 月 30 日の午後 1 時 20 分頃、【場所】にて私が転倒した際、チュニジア人の方お二人と、日本人の女性通訳の方お一人が、親身になって助けてくださいました。お一人は、わざわざ近くのコンビニエンスストアまで走り、傷の手当てに必要なパッドを購入してくださいました。また、別の方は私のためにタクシーを探してくださいました。

さらに、タクシーを降りる際、すでに運賃まで支払ってくださっていたことを知りました。見ず知らずの私に、これほどまでに温かいお心遣いをしてくださったことに、深く感動いたしました。突然の出来事であったため、その場では十分に感謝の気持ちをお伝えすることができず、心残りに感じております。

今回の出来事を通じて、チュニジアの方々の優しさと思いやりに触れることができました。このご親切は、いつまでも忘れることはありません。

助けてくださった方々のお名前やご連絡先は存じ上げませんが、もし何らかの形で感謝の気持ちをお伝えいただける機会がございましたら、大変ありがたく存じます。

最後になりますが、チュニジアの皆様のご健康とご多幸、そして日本とチュニジア両国の友好関係がますます深まりますことを、心よりお祈り申し上げます。

お忙しいところ、最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

村松 緑 様

このたびは、ご丁寧なお礼のお言葉をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

10 月 30 日の出来事につきまして、心温まるお話を拝読いたしました。

お助けした方々のお名前や詳細が分からないため、当館においてもご本人を特定することは難しい状況ではございますが、チュニジア国籍の方々が村松様に対して示された温かいご親切とお心遣いを、私どもも大変誇りに思っております。

また、このようなお話を通じて、チュニジアの人々の優しさや思いやりを感じていただけたことを、心より嬉しく存じます。

村松様のご回復をお祈り申し上げますとともに、今後とも日本とチュニジア両国の友好関係が一層深まりますことを願っております。

このたびは、心温まるお便りをお送りいただき、誠にありがとうございました。

駐日チュニジア共和国大使館

阿久津

NPO法人中国帰国者･日中友好の会活動（2026年6月～9月）

6月～8月	本会の会員が池田澄江ほか、メディアから取材を受ける
7月19日	上野賢一郎厚労大臣へ要請書を手渡した（残留孤児代表5名および弁護士2名）
9月5日	代々木公園で開催された「チャイナフェスティバル2026」に楽器･音楽･舞踊教室の各メンバーが出演した
9月24日	「中和人民共和国建国77周年」（中華人民共和国駐日本国大使館主催）のレセプションに池田理事長他 1 名が出席した
9月29日	水戸市内原郷土史義勇軍資料館等を見学した（69 名）

※お知らせ※

★満月祭

時間：2026 年 11 月 28 日

場所：池袋西口公園野外劇場

★足立区地域交流会

時間：2027 年 1 月 30

場所：エル・ソフィア

★人権学習フェスティバル

時間：2027 年 3 月 6 日

場所：目黒区中央町社会教育館

会報のバック・ナンバーお読みになれます♪

《家園》編集委員（第３６号）

白 山 明 徳		河 村 忠 志	
吉 岡 孝 行		張	狄
祖 父 江 安 紀 子		孫	妮
大 久 保 明 男			
写真撮影	大久保明男 吉岡孝行		
レイアウト	松本莉恵 張狄		

編 集 後 記

定风波　　淨守

莫叙旧岁苦寒多，心灯亮起即暖和

烟火市井堪赏处，徐步，

风动松柏任婆娑

得闲独饮也成趣，渐悟，

春夏秋冬照常过

若品余生何所寄，莞尔，

半随流水半随歌

よろず相談窓口

TEL：03-3835-9357 平日 10:00～16:00　　日本語・中国語対応